

## 1、りんごの肥大状況

7月12日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っております。

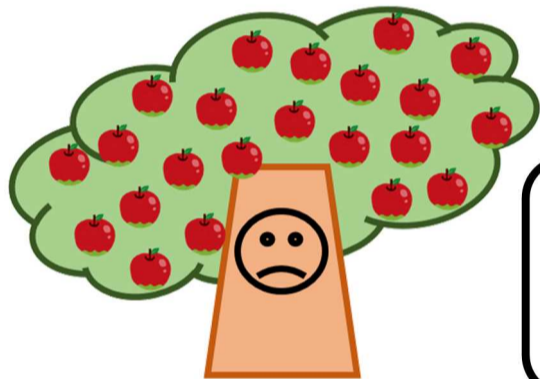
単位：cm

	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
中崎（平場）	5.8	5.8	5.4	5.0
住吉（中間）	6.0	5.8	5.0	4.9
弥生（山手）	5.0	5.2	4.7	4.6
農協平均	5.9	5.8	5.2	5.0
平年値	5.5	5.4	5.0	4.7

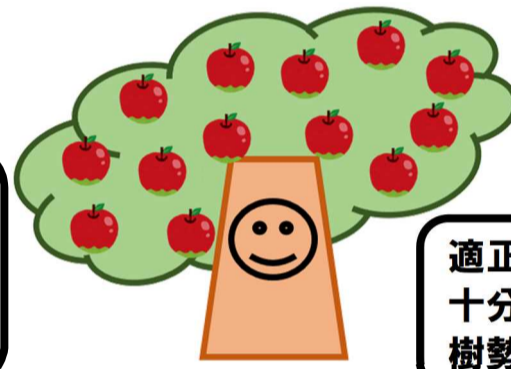
## 2、摘果作業

7月は花芽形成時期になります。花芽形成は日照時間が長く、涼しい気候であれば花芽形成が進みます。花芽形成を促すためにも、強い摘果を行い、養分の分散を防ぎましょう。

肥大が進むにつれ、間隔をあけて摘果したつもりのりんごが密着していたり、着果量が多かりんごの重みで枝が下がっています。適正着果にすることで、良品果率が高くなりますので、摘果は収穫時期のりんごを創造しながら作業を進めていきましょう。また、早生種は収穫まであと約1ヵ月となりました。見直し摘果を行い品質アップを目指しましょう。



着果量が多いと、りんご1個あたりの養分は少なく、品質が低下。また、樹体、花芽形成に十分な養分が供給されなくなります。



適正着果にすると、養分が十分に供給され、花芽形成、樹勢も良好になります。

## 3、薬剤散布

病害の発生は少ないものの、黒星病の被害葉は各園地で確認されております。果実被害を防ぐためにも、基本の散布間隔と降雨前散布を徹底しましょう。また害虫では、リンゴハダニ（赤ダニ）、ナミハダニの発生が平年よりも早くから確認されております。発生量が多くなると、殺ダニ剤を散布しても対応しきれない場合がありますので、こまめに予察を行い発生しているダニに合わせた農薬を散布しましょう。

散布時期 反当散布量	対象 病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍 数	1000ℓ 当り薬量	防除上の注意
10回目 7月半ば（7/19頃） 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 コクモンハマキ・ギンモンハモリガ	オキシラン水和剤 フェニックスフロアブル	500倍 4,000倍	1kg×2袋 250ml×1本	・散布間隔は15日以内とし、降雨が予想される場合は、前倒して散布してください。
11回目 7月末（8/3頃） 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 ナシヒメシクイ・ギンモンハモリガ	ダイパワー水和剤 バリアード顆粒水和剤	1,000倍 4,000倍	1kg×1袋 250g×1袋	・ハダニの発生予察を行い、発生が早い場合は殺ダニ剤の早期散布を検討しましょう。 ※マイトコーネはナミハダニのみ効果があります。
12回目（8/18頃） 8月半ば 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 ナシヒメシクイ・ギンモンハモリガ	イカズチWDG コロマイト（乳） アリエッティC（水）	1,500倍 1,000倍 800倍	333g×2袋 500ml×2本 1.25kg×1袋	・アブラムシの発生が多い場合は、コルト顆粒水和剤・トランスフォームF whichever の剤を添加して散布しましょう。
13回目（9/2頃） 8月末 500ℓ/10a	黒星病・斑点落葉病・褐斑病 炭そ病 モシクイガ・ハダニ類 ナシヒメシクイ・ギンモンハモリガ	ダイパワー（水） サムコル（F）	1,000倍 5,000倍	1kg×1袋 200ml×1本	・アリエッティCは最後に混用しましょう。
特別散布（9/17頃） 9月半ば 500ℓ/10a	黒星病 すす斑・すす点病	オーソサイド（水）	800倍	1.25kg×1袋	

## 令和3年産りんご予約受付実施中！！

現在今年産のりんご予約申込みを受付しております。受付期間は7月21日（水）までとなりますので、1箱でも多い予約をお願いいたします。

